

令和3年3月25日

南の風 392

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

391号の続きです。

オールコートプレスというのは、両刃の剣と言えます。

相手チームを心理的に圧迫して、プレスが効果的に機能してゲームの流れを一気に引き寄せられる場合と、反対に裏を突かれたり、速いパスで運ばれたりして一気にアウトナンバーを作られ、簡単に破られてしまい思わぬリスクを負うことがあります。仕掛ける場面と時間の長さが成否のカギになります。

実力がかけ離れている場合は、プレスをかけ続けて勝負が決してしまうことがあります。実力伯仲のゲームでは、ある時間帯には効果があっても長くは続きません。相手も対応してくるからです。

③のケースでは繰り返しますが、相手チームがタイムアウトを取った時にプレスはやめるべきだと思います。自チームのベンチの指示としては、391号で書いたようにすべきです。逆転したわけですから、さらにメンタルを鼓舞する意味では、「全員でやるべきことを徹底して、ディフェンスをがんばろう！！」と盛り上げることが大切です。

「ディフェンスをがんばろう！！」というのは、「逆転したのだから、この点差を守り切ろう」と消極的になることはありません。

相手チームは、残り時間（2分の設定）を考えると強引に攻めてくることも考えられます。ディフェンスが受け身になると、足が止まりドライブで抜かれたり、思わずファウルをしてしまったりすることが起きます。足を十分使って、手だけでボールをチェックしたりせずにボールマンについて行き、タフショットを打たせるように守ることが求められます。そして、「まだまだこれから、ディフェンスから攻めにつなげるぞ！」という気持ちで守ることが大切です。

また、オフェンスでは時間を有効に使うことが必要です。ボール運びを確実にすること（相手のプレスに対して）、例えばドリブルハンドオフで安全に交わしたり、バックビートアタック（裏のプレー）を使ったりして攻めます。

中学やミニバスのゲームでは、具体的にドリブルハンドオフの注意点やパスの出し方（パスカットされないために）まで詳細に指示することが大切です。

この場面のオフェンスの目的は、シュートを決めることではなく、相手の攻めの時間を潰すことです。如何に時間を進めてタイムアップに持ち込むかが大きな戦略になります。

③のケースでは負けてしまったチームの、逆転してからのゲームプランに問題があったと私は思います。今まで書いてきたことが、もちろん唯一絶対ではありませんが、逆転してから再逆転されるまでのゲームの推移の中で、やるべきベンチワークとして参考にさせていただければと思います。

ここまで①②③のシチュエーションから、クリティカルモーメントの場面に付いて書きました。

勝敗の分岐点となるクリティカルモーメントを察知して、的確な指導・指示を出すことは、ベンチを預かるヘッドコーチの最も重要な仕事です。現場で指導に携わる皆さんが、クリティカルモーメントの大切さを感じ、ベンチワークの一助にさせていただければ幸いです。